
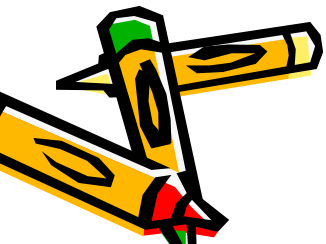


ジャーナリズム史

アメリカのジャーナリズム



- 
1. 植民地新聞
 2. 政治(政党)新聞からペニープレス時代へ
 3. 南北戦争前後の新聞
 4. イエロー・ジャーナリズムの始まり
 5. J. プューリッツアーとW. R. ハースト
 6. 20世紀の新聞
 7. 通信社の出現
 8. 世界大戦と新聞

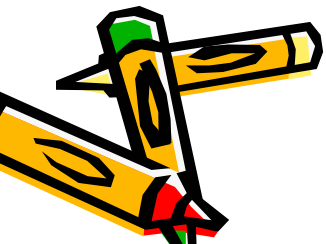


初期植民地社会

出版、印刷の禁圧が依然として続いていた
植民地社会が小さく、孤立し、開拓に日々多忙
のため、物を読む暇などなかったこと
茶のみの集会場所や道端での立ち話で情報交
換は十分だった
限られた土地での商売のため、遠方からの情報
は必要無かった

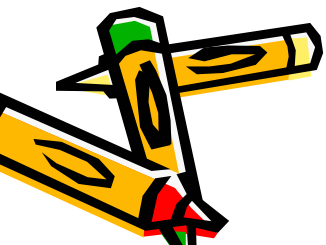
Publick Occurences, Both Foreign and Domestick

- 1690.9.25
- Benjamin Harris :
- たった1号で停刊処分



Boston News-Letter

- 1704.4.24
- 定期的に発行された最初の新聞
- John Campbell : ボストンの郵便局長



新聞の発行相次ぐ

- 1719.12.21 ~ Boston Gazette William Brooker - 郵便局長
- 12.22 ~ American Weekly Mercury (フイ) Andrew Bradford (William の息子) - 印刷店主 **ボストン以外での初の新聞**
- 1721.8.7 ~ New England Courant James Franklin **元郵便局長**

New York Weekly Journal

- 1733.11.5 ~ John Peter Zenger
- New York Gazette(王権派,1725.11.8 ~ William Bradford 印刷所長) **に対抗、総督を攻撃**
- **ゼンガー事件(1734)**

18世紀初頭の新聞

- 政府機関紙... Boston Gazette, American Mercury, NY Gazette... 植民地政府の政策普及が第一の目的
- 政党機関紙... NY Weekly Journal: 総督の政策に反対派

【新聞の特徴】

年間購読、広告が少ない、富裕層が少なく読者も限定
ニュースは早くて30日余り、遅いのは50日もかかった
新聞発行者はパトロンつきか、兼業で生活

Benjamin Franklin

- Pennsylvania Gazette :1729創刊
- 投書家、作家、新聞発行者、経営者、発明家、科学者、政治家、外交官
- インキ材料の販売、年鑑の発行、図書出版、製紙工場への出資
- 新聞発行以外に、Pen植民地の印刷所長、議会書記、フィ郵便局長 ニュース収集に役立つ

南部植民地

- 南部の新聞は、農業地帯の特性を生かし、農産物関係のニュースが多かった。
- 奴隷制の下で富裕、有閑層に受ける結婚などの社交記事、観劇、競馬などを報道。

人口の増加と新聞

- 英仏戦争:1756-1763
- 独立戦争:1775-76
- 新聞は「英国派」「独立派」に分裂
- 「中立派」も立場の明確化が求められる
- 発行者の経歴や考え方 / 読者層 / 資金源が新聞の立場を決定
 - 親英紙(トーリー):英国から資金援助
 - 独立派(パトリオット):植民地議会が金を出す

政党(政治)新聞の登場

- 新聞の指導性を、大衆が認め始める
- 指導者が見解を新聞に発表
- 二大政党的グループが社会に形成されて行く
フェデラリスト リパブリカン

政治的ジャーナリズムの色彩が強い状況

党派的な対立感情が続く:新聞の数増える

日刊紙	1783年～	1800年	1825年
	3紙	24紙	50紙

憲法の制定と「新聞の自由」:1789